

○ワークショップ①

会場：東北大学 片平キャンパス エクステンション教育研究棟  
201A 教室 12:45～14:45

企画：総務企画委員会「住宅地の液状化現象への対処と地価および家賃への影響」

主旨

東日本大震災を経験し、広く認知されるようになった、「液状化現象」は主に砂丘地帯や三角州、港湾地域の埋め立て地などで発生するが、都市化の進展とともに住宅地での被害が多くみられるようになってきた。

この問題は、すでに被害が発生した地区のみならず、潜在的な被害想定地区における対策費用の発生や、地価や家賃の低下を通じて、経済的な被害を広く与えるという特徴を持っている。また、この現象に伴う影響は、別の場所での地震発生によっても、また、直接被害はなくても隣接の地区で地価や家賃の低下がみられるなど、被害の時間および空間的な発生メカニズムが複雑であることが、問題の把握や適切な対策を講じるにあたって、困難を引き起こしている。

本ワークショップでは、工学的、経済的、制度的な観点からのディスカッションを通じて、問題および対策の明確化を目指すことを目標にしたいと思う。

【パネリスト】

中川雅之（日本大学経済学部教授）

「液状化現象の地価および家賃への影響」

宗 健（株式会社リクルート住まいカンパニー住まい研究所所長）

「広告掲載データから見た不動産賃料・価格推移への液状化被害の影響」

齊藤広子（明海大学不動産学部教授）

「液状化による住宅・生活・身体への影響」

直井道生（慶應義塾大学経済学部准教授）

「家計パネルデータからみた液状化リスクの認知と家計行動」

【コーディネータ】

太田 充（筑波大学システム情報系准教授）

○ワークショップ②

会場：東北大学 片平キャンパス エクステンション教育研究棟  
201B 教室 12:45～14:45

企画：関西支部「住まいとケアの連携—ケアをどこまで提供すべきか—」

主旨

高齢者介護では住み慣れた地域での居住継続が目指されている。在宅サービスでは、住まいとケアを分離し、外部からケアを届けることで利用者の自立やサービスの効率化を目指している。介護サービスの面では、小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護など包括報酬の仕組みが制度化され、住まいの面ではサービス付き高齢者向け住宅など施設ではない居住のあり方が模索されている。また、住民組織による見守り活動など制度化されていない活動も活性化してきている。在宅サービスにおいては質の高いサービスを提供できる環境が整いつつあるが、いずれも人材、財源に限りがあり、「どこまでケアを提供すべきか」いう線引きが必要となる。これまで高齢者介護はマイナス面を払拭し、あたり前の生活を普通に行えることを目指してきたが、これからは地域に適した介護のあり方を地域の人々が考えていく時代に入っている。今回のワークショップでは国内外の事例について詳しいパネリストをお呼びし、これらの問題について議論を深めていく。

【パネリスト】

石井 敏（東北工業大学教授）

井上博文（シンフォニーケア株式会社常務取締役）

佐藤由美（大阪市立大学特任講師）

【コーディネータ】

田端和彦（兵庫大学教授）

【司会】

三浦 研（大阪市立大学大学院教授）